

# H A G 萩

題字は吉田松陰筆跡

SUMMER ISSUE 2018

88



ポブリ壺「エペール」1757年  
セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo © RMN-Grand Palais  
(Sèvres, Cité de la céramique) /  
Martine Beck-Coppola /  
distributed by AMF

<休館のお知らせ>  
山口県立萩美術館・浦上記念館は  
改修工事の為  
平成30年11月26日から  
平成31年3月31日(予定)まで  
休館します。

HAGI URAGAMI MUSEUM

# フランス宮廷の 装飾芸術

—セーヴルをめぐる王侯貴族と文化人サロン—

櫻庭美咲



図1



図2



図3



図4



図5



図6



図7



図8



図9

セーヴルの磁器製作所は、フランス宮廷の食器や室内装飾用の磁器の製造を目的に、1745年に設立されました。そこでは、ヴェルサイユに花開いた壮麗な宮廷美術にふさわしい格式をそなえた、宮廷人のための磁器が育まれました。創設時から製作所には、ルイ15世(1710-1774)の愛妾ボンパドゥール侯爵夫人(1721-1764、図1)らにより財政援助を受け、ルイ15世から磁器製造の独占権も得て格別の地位が保証されていました。

製作所ははじめ、パリ北東部のヴァンセンヌの古城内を拠点としていました。しかしその成功によりほどなく手狭となり、規模拡大のため製作所は1756年、セヌ川に面したパリ西部のセーヴルの地へと移転します。やがて正式に王立製作所として認可されると、製作所は王家との結びつきをいっそう深めていきます。

「ブル・セレスト」(図2)、「ブル・ラピス」(図3)、「ボンパドゥールのバラ色」といった地色のための釉薬は、セーヴル独自のものです。これらの色釉は、化学者ジャン・エローが中国の景德鎮窯の釉薬に着想を得て開発されましたが、この釉の色調はヴェルサ

イユの美術を思わせ絢爛たる輝きに満ちています。

フランス王ルイ15世・16世とその妃達は、数多くの会食のための大規模な食器のセルヴィス(揃いの文様を絵付した食器のセット)を製作所に注文しました(図2)。しかし、初期のセーヴル磁器の素材であるクリーム色の磁胎色の美しい軟質磁器は、食器としては強度が弱く壊れやすいものです。破損すると同一デザインの器が追加注文され補完されつつ、大切に使い継がれました。

セーヴル磁器は、外国に暮らすフランス王家の家族への贈り物としても活用され、多くの宮廷に伝えられます。1773年、ルイ15世は、スペインのアストゥリアス公に嫁いだ孫娘マリー＝ルイーゼ・ド・バルム(1751-1819、図4)のために、225点から成る食器セットを製作所に注文します(図5)。この一式の大部分は1774年に製造され、ルイ15世の没後1775年にマドリドの王宮に届けられました。のちに夫君はスペイン王カルロス4世として即位し、マリー＝ルイーゼはスペイン王妃となります。

1760年頃には、それまで西洋磁器のシェアを独占していたマイ

センが、7年戦争の被災により技術力を低下させました。そのあいだセーヴルはマイセンを完全に追い抜き、ヨーロッパ第一の磁器としての名声を獲得します。セーヴルの食器が、ルイ16世からスウェーデン王グスタフ3世やロシアの女帝エカテリーナ2世(図6)をはじめとする君主たちに贈られ、その後も注文を受けるほど愛好されたのはそのためでした。

才色兼備と謳われたボンパドゥール侯爵夫人が文化人や学者たちを招き催したサロンには、多くの芸術家が招かれます。画家ブーシェも夫人のサロンのメンバーでした。ブーシェがセーヴルの絵付見本として提供した版画は数多くの作品に生かされています(図7)。

流麗な曲線を描き複雑に絡み合うフォルム(形態)の美しさも特筆すべきものです。すぐれた彫塑作品の多くは、彫刻家ファルコネや金細工師のデュプレシをはじめとする芸術家が、夫人の求めに応じて製作した原型にもとづいています(図3、8)。

日々の暮らしのための小品にも、驚くほど細やかな美意識がこめられました。この小さな蠟燭立てのフォルムは、ひと続きの螺旋をえがく渦巻から成っています(図9)。このフォルムは、ロココの典型的な装飾文様で、ロカイユと呼ばれます。そこにはさらに、小薔薇やオリーブの実を象った浮き彫りがほどこされ、涼やかなリズムを奏でています。深紅色の色絵具の繊細なグラデーションと黄金の輝きは、波打ったマティエールをひきたて、甘美なフォルムを重厚な気品で包みこんでいます。

フランス革命後に成立したフランス共和国の時代以降も、セーヴルは、高度なデザイン力を維持しながら、ナポレオンをはじめ歴代君主たちのための磁器の新作を次々と発表しました。セーヴル磁器は、変わりゆく時代の美術様式に機敏に対応し、革新的な芸術の息吹を磁器で表しながら、その美の系譜は今日もおひき継がれています。

(神田外語大学 専任講師)

- 図1 フランソワ・ブーシェ《ボンパドゥール夫人》1756年 アルテ・ピナコテーク所蔵  
bpk / Bayerische Staatsgemäldesammlungen, Sammlung Hypo Vereinsbank, Member of UniCredit / distributed by AMF
- 図2 大皿(ルイ15世の「ブルー・セレストのセルヴィス」より)1754-1755年 セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo ©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF
- 図3 「雄山羊のついた楕円壺」と「雄山羊の頭部のついた壺」1766-1767年 セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo ©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF
- 図4 アントン・ラファエル・メンクス《マリー＝ルイーゼ・ド・バルム、アストゥリアス公妃》1765年頃 プラド美術館所蔵  
Photo ©Museo Nacional del Prado, Dist. RMN-GP / image du Prado / distributed by AMF
- 図5 角皿(「アストゥリアス公妃のセルヴィス」より)1774年頃 セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo ©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) / Tony Querrec / distributed by AMF
- 図6 皿(「ロシア皇帝エカテリーナ2世のカメオとイニシャルのセルヴィス」より)1778年 セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo ©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF
- 図7 ポリマー「ア・ジュール(透かし)」一対 1752年 セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo ©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF
- 図8 貝を捧げ持つニンフ 1761年頃 セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo ©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF
- 図9 手燭 1754年 セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo ©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF



[左]ダンサーNo.13  
(テールセンターピース  
「スカーフダンス」より)  
1899 - 1900年  
セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo © RMN-Grand Palais  
(Sèvres, Cité de la céramique) /  
Martine Beck-Coppola /  
distributed by AMF

[右]ポブリ壺「エペール」  
1757年  
セーヴル陶磁都市所蔵  
Photo © RMN-Grand Palais  
(Sèvres, Cité de la céramique) /  
Martine Beck-Coppola /  
distributed by AMF

## イベントのご案内

### 1 記念講演会

「華麗なるセーヴル磁器の歴史とその魅力」

講 師：櫻庭美咲氏 (神田外語大学専任講師)  
日 時：7月28日(土) 13:30 ~ 15:00  
会 場：本館講座室 (84席)  
※聴講無料・申込不要

### 2 セーヴル磁器で楽しむ ティー・セミナー

アンティークのセーヴル磁器ティーセットで紅茶を楽しみながら、セーヴル磁器の奥深い魅力とフランスにおける知られざる紅茶文化を学びます。

講 師：塩谷哲夫氏 (ロムドシン代表取締役)  
坂本三佳氏 (日本紅茶協会  
シニアティーインストラクター)  
日 時：8月18日(土) 14:00 ~ 16:00  
参 加 費：4,000円 (観覧料を含む)  
定 員：16名 (申込先着順。小学生以下は  
保護者同伴が必要。)

会 場：陶芸館多目的室  
申込方法：事前申込制 (受付先着順)。  
電話 (0838-24-2400) にて、  
①参加者全員の氏名・年齢  
②代表者の住所と電話番号  
(日中の連絡先) をお知らせください。

### 3 ワークショップ

「切り絵の絵付け〜転写シート活用術」  
カラフルな転写紙を使って、オリジナルデザインの上絵  
付けを楽しめます。

講 師：担当学芸員  
日 時：8月4日(土)  
④10:00 ~ 12:00、⑤13:00 ~ 15:00

参 加 費：1,000円  
定 員：各回16名 (申込先着順。小学生以下  
は保護者同伴が必要。)

会 場：陶芸館多目的室  
申込方法：事前申込制 (受付先着順)。  
電話 (0838-24-2400) にて、  
①参加者全員の氏名・年齢  
②代表者の住所と電話番号  
(日中の連絡先)  
③参加回(④または⑤)をお知らせください。

※ワークショップでの完成作品は、当館まで直接取  
りに来ていただくか、配送 (料金着払い) となります。  
受け取り開始日時についてはイベント当日に案内しま  
す。

### 4 ギャラリー・ツアー

(担当学芸員による展示品解説)  
日 時：会期中、毎週日曜日  
11:00 ~ 12:00  
会 場：本館2階展示室  
※要観覧券・申込不要

彫金のわざと美

# 山本晃の 詩想と造形

2018年

10月2日(火) ~ 11月25日(日)

休 館 日 10月15日(月)、10月29日(月)、11月12日(月)

開館時間 9:00 ~ 17:00 (入場は16:30まで)

会期中、毎週金曜日は19:00まで開場 (入場は18:30まで)

観 覧 料 一般1,000 (800)円/70歳以上の方・学生800 (600)円

※( )内は前売りおよび20名以上の団体料金。  
※18歳以下の方および高等学校中等教育学校特別支援学校の生徒は無料。  
※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手  
帳の提示者とその介護者(1名)は無料。  
※前売券は、ローソンチケット(Lコード62475)、セブンチケットで販売して  
います。  
※開館記念日(10月14日[日])は、どなたも無料でご覧いただけます。

主 催 山本晃実行委員会  
(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)  
後 援 山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会、公益社団法人日本工芸会  
特別協力 エフエム山口

昭和19年(1944)山口県光市に生まれた山本晃は、インダスト  
リアルデザイナーとして東京で活動した後、昭和49年(1974)に  
郷里の光市に戻ってほぼ独学で彫金の創作活動を始めました。

異なる金属板を銀鍍でつなぎ合わせて模様を創り出す「接合  
せ」、模様を輪郭で切り抜いて異なる金属板を嵌め込む  
「切り絵彫金」といった、複雑で高度なわざを駆使し、色金の多彩  
なグラデーションを表現した器などのかたちに、山本は金属の堅  
さや冷たさを感じさせない豊かな詩情世界を表現してきました。  
平成26年(2014)10月に重要無形文化財「彫金」の保持者に  
認定された、そのわざと美の洗練を初期作品から最新作をととし  
て紹介します。



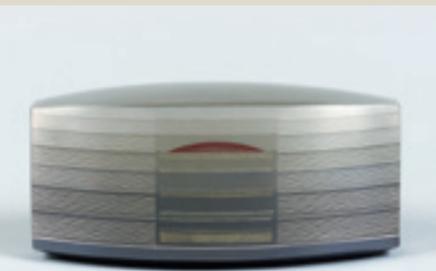
《切嵌象嵌接合せ器「夏影」黒》平成27年(2015)式年遷宮記念 神宮美術館蔵



《切嵌象嵌接合せ箱「白椿」》平成21年(2009)当館蔵



《切嵌象嵌接合せ香炉「白鷺」》平成24年(2012)広島県立美術館蔵



《切嵌象嵌接合せ箱「夕風」》平成26年(2014)MOA美術館蔵

## イベントのご案内

### ①記念講演会「近代の金工と山本晃」【聴講無料・申込不要】

講 師 榎本 徹氏 (岐阜県現代陶芸美術館顧問)  
日 時 10月6日(土) 13:30 ~ 15:00  
会 場 本館講座室 (84席)

### ②〈アーティスト・トーク〉【要観覧券・申込不要】

アーティストから、作品についていろいろな話が聞けるチャンス!  
日 時 10月14日(日)・11月25日(日)、14:00 ~ 15:00  
会 場 本館2階展示室

### ③〈ワークショップ〉「金工のわざを知る」【要観覧券】

銀で自分だけのブローチづくりに挑戦!!  
講 師 山本 晃氏 (重要無形文化財「彫金」の保持者)  
岡本佳子氏 (金工作家)  
日 時 11月11日(日)、13:00 ~ 16:30  
会 場 陶芸館多目的室  
定 員 8名  
参加費 2,000円  
※事前申込制 (受付先着順)。  
電話 (0838-24-2400) にて、  
・参加者全員の氏名・年齢  
・代表者の住所と電話番号 (日中の連絡先)  
以上をお知らせ下さい。

### ④〈ギャラリー・ツアー〉【要観覧券・申込不要】

学芸員による作品解説  
日 時 10月7日(日)・10月21日(日)・10月28日(日)・  
11月4日(日)・11月18日(日)、11:00 ~ 12:00  
会 場 本館2階展示室

# フランス宮廷の磁器 セーヴル 創造の300年

Sèvres: 300 Creative Years Porcelain for the French Court

平成30年(2018)

7月24日(火) ~ 9月24日(月) 月・振休

休 館 日 8月6日(日)、8月20日(日)、9月10日(日)

開館時間 9:00 ~ 17:00 (入場は16:30まで)

会期中、毎週金曜日と  
8月2日(土)は19:00まで開場 (入場は18:30まで)

観 覧 料 一般1,200 (1,000)円、70歳以上・学生1,000 (800)円

※( )内は前売りおよび20名以上の団体料金。  
※18歳以下の方および高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒は無料。  
※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示者と  
その介護者(1名)は無料。  
※前売券は、ローソンチケット(Lコード62687)、セブンチケットで販売しています。

主 催 セーヴル展萩実行委員会 (山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY山口放送)  
企 画 セーヴル陶磁都市  
後 援 フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、日本紅茶協会、  
山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会  
協 賛 大日本印刷  
協 力 日本航空、日本通運

18世紀のヨーロッパにおいて磁器への憧れは極まりをみせ、フランスでは国  
王ルイ15世の庇護の下、パリ近郊のセーヴルに王立磁器製作所が生まれ  
ます。以後、優雅で気品溢れるセーヴル磁器は、ポンパドゥール侯爵夫人や王妃  
マリー・アントワネットといったフランスの宮廷人たちをはじめヨーロッパの王侯貴  
族たちを魅了し、現在まで常にその高い技術と芸術性を保持し続けてきました。  
本展は、そうした300年近くに及ぶセーヴル磁器の創造の歴史を、18世紀、19世  
紀、アール・ヌーヴォーとアール・デコの20世紀、現代と、各時期を代表するセー  
ヴル作品を通してご紹介します。また、これまであまり知られてこなかったセーヴル  
と日本との交流についても、日本の彫刻家・沼田一雅 (1873 ~ 1954) の作品や  
現代の日本の芸術家・デザイナーたちとのコラボレーションから生まれた作品を通  
じてご紹介します。セーヴル陶磁都市所蔵の優品約130件により、ヨーロッパ磁  
器最高峰の一つとされるセーヴル磁器の魅力をご堪能ください。



# 齋藤敏寿の茶室 熔結 The adhesion of melt 2018.4.1[sun]-11.25[sun]

茶室《熔結81021》2018年、寸法：幅140.0×奥行234.0×高132.0 (cm)、素材：陶/鉄  
床の間（壁掛け）《熔結81022》2018年、寸法：幅20.0×奥行11.0×高43.0 (cm)、素材：陶  
床の間（床）《熔結41023》2014年、寸法：幅30.0×奥行23.0×高26.0 (cm)、素材：陶

# やきものだからこそできる表現 とは何なのか

## 「齋藤敏寿の茶室 熔結 The adhesion of melt」に寄せて

層になった格子状の面が、鉄の支えを得ながら、組み合わせることでバランスを取り、自立するオブジェ。陶で出来た格子状の面は蕩けきってどろどろとしたところもあれば、丸みを帯びたところ、くっきりとした形状を留めたところもあり、実にさまざまです。全体は黒色っぽい光沢を帯び、ところどころ冷たい銀色の光が放たれています。やきもの=器という先入観にしばられると、このインスタレーションが一体何で出来上がっているのか理解することは難しいかもしれません。

これまで、やきものだからこそできる表現を追求してきた齋藤が、四畳半の茶室空間に提示したのは、素地(土・粘土)を焼成する際に物質が“熔ける”という現象に焦点を当てたインスタレーションでした。窯の中に入れられる前、素地は、コバルト、マンガンが練り込まれた土でかたちが作られ、その上に釉薬が施された状態で、粘土、長石、珪石、鉄、コバルト、マンガン等々、たくさんの造形要素が混在しています。これが熱で熔かされ、結合し、重力にしたがって変容してゆくのです。齋藤は、窯の中でのこの出来事を“熔結”と呼んでいます。

高校から大学時代の初めまで油画を学んでいた齋藤は、自分が完成だと決断するまで絵を描き続けなければならないことに悩み、新たな表現手段を模索するなかで陶芸と出会います。このような経緯を持つ齋藤にとって、作品を完成させるまでに焼成という作家の手を離れる時間があることや、その時間に生まれる表現としての“熔結”は、魅力的であり、やきものらしさを強く感じさせるものでした。

「でもね、“とける”ということは人間の文明の発達全般にも大きく関わっているでしょう？」

昨年秋、展示の打ち合わせを兼ねて、筑波大学内の制作現場を訪ねた時、齋藤はそんなことを話してくれました。この時の齋藤の言った“とける”は、熱で熔けるだけでなく、薬品など、いろいろな力によって“とける”ことを意味していたのだと思います。たしかに、やきものに限ったことではありません。例えば、CPUやICチップの製造には溶接や腐食といった材料を溶かす工程が含まれていますし、合成樹脂、化学繊維製品も溶けた状態からモノを成形していきます。こうやって考えてみると、“とける(熔ける・溶ける・融ける…)”ことは、どの時代においても、人間社会のかたちあるモノの成り立ちを陰で支えている気がしてきます。

「茶室という場にて 社会にある不条理とこれからの未来を想像して生きていることの意味を考え、傲慢さやあやまち、自身の無力さを認識し立ち止まり、様々な考えを享受してモノとコトを思考する場となれば幸いです」<sup>注</sup>

そう語る齋藤は、土が陶へ変化する過程で現れた“熔結”を提示することで、その向こうに見える社会とつながり、思考する場としての茶室空間を創り上げたのです。

さて、この展示室の奥にはバルコニーがあり、そこにはもう一つのオブジェが存在感を放っています。<sup>アーキタイプ</sup>「archetype79911」

と名付けられたこの作品は、人類が持つDNAや様々な物事(動物、植物、遺伝子、物質、分子、原子、クオーク等)に共通するかたちの“アーキタイプ=元型”のようなものがあるのではないかと、というコンセプトで作られた齋藤の代表的なシリーズの一つです。普遍概念という怪物が形を与えられて、今にも動き出しそう、そんな感じがします。

大きくうねる陶のオブジェは決して軽やかではなく、重たいものが重たいままに躍動し、鉄の補助があるとはいえ、いくつかの尖った先端部分だけでその重さを支えているため、恐ろしささえ呼び起こします。陶は鉄と絡みながら自分自身を制限することなく、あるがままで見事に重力から解放されているのです。

さらに観察すると、この複雑なかたちは複数のU型のブロックで構成されていることがわかります。齋藤はハンモックを利用して成形したと語っており、その正体は、作家が思い通りに作ったかたちではなく、粘土自身の重みによる自然な曲面、曲線の集合体であるといえます。

私たちの目の前に実在する齋藤のオブジェはどれも、表象としての陶、すなわち私たちが陶とはこうあるものだと思いつく姿をいとも簡単に裏切ってみせます。この心地良くもある実在と表象の乖離は、作家が土の特質と物質変容を思考して立ち上げたかたちの結果であり、陶芸とは何なのかを鑑賞者に改めて問うモノなのです。

注) 齋藤敏寿「熔結 The adhesion of melt」  
(茶室展示リーフレット)

潤田恵子(当館専門学芸員)



中央「archetype79911」1997年、寸法：幅180.0×奥行180.0×高225.0 (cm)、素材：陶/鉄  
左右「熔結81021」(部分) 2018年、寸法：幅140.0×奥行234.0×高132.0 (cm)、素材：陶/鉄

## 明治150年 浮世絵に見る幕末明治③ 文明開化

普通展示(浮世絵) 7月10日(火)~8月19日(日)



歌川芳虎(二代立祥)「東都高輪蒸気車往來之図」大判錦絵3枚続 明治4年(1871) 当館蔵

明治150年を記念し、年間を通して幕末明治の浮世絵版画を紹介する全6回のシリーズ。第3回のテーマは文明開化です。

幕末から開港場を中心に風俗習慣や衣食住の西欧化が始まり、明治新政府の富国強兵と殖産興業という政策が展開するにつれて、文明開化の風潮が広まってきました。今回は第一国立銀行、鉄道、銀座煉瓦街などの国家事業や、人力車、洋装などの風俗習慣、歌舞伎などの芸能における近代化をご紹介します。

## 明治150年 浮世絵に見る幕末明治④ 新しい歴史画

普通展示(浮世絵) 8月21日(火)~9月24日(月・振休)



月岡芳年「大日本史略図会 第十五代神功皇后」大判錦絵3枚続 明治12年(1879) 当館蔵

明治150年を記念し、年間を通して幕末明治の浮世絵版画を紹介する全6回のシリーズ。第4回のテーマは新しい歴史画です。

明治時代には、新たな統治者である天皇の権威を歴史的に裏付けるため、復古的な政策や皇国史観にもとづく教育が行われました。こうした時代背景の中で、浮世絵版画では、中世の武勇伝や合戦を描いた武者絵という主題が、尊王愛国の士気を育む歴史画へと変化を遂げます。今回は、月岡芳年や小林清親などが描いた歴史画をご紹介します。

## 明治150年 浮世絵に見る幕末明治⑤ 小林清親が描いた東京風景

普通展示(浮世絵) 10月2日(火)~10月28日(日)

明治150年を記念し、年間を通して幕末明治の浮世絵版画を紹介する全6回のシリーズ。第5回のテーマは、小林清親が描いた東京風景です。

小林清親(1847~1915)は、明治9~14年(1876~81)の間に、西洋絵画や写真などに学んだ陰影法や明暗法などの手法を用いた光線画とよばれる新しい様式を持つ風景版画を計93点発表しました。今回は、清親の「東京名所図」を中心に、26歳で夭逝した弟子の井上安治(1864~89)の作品も併せてご覧いただけます。



小林清親「東京新大橋雨中図」大判錦絵 明治9年(1876) 当館蔵

## 「山口県の工芸」

普通展示(工芸) 10月2日(火)~11月25日(日)

工芸は、器や道具といった実用一辺倒のものづくりばかりでなく、用途に合わせた機能や形態を持ちながら美的価値をそなえたり、また、既成の概念にとらわれず、作り手の美意識が自由に表現されたり、作品としての造形性もじつに豊かで多様です。

山口県には、地域の伝統的な工芸技術を色濃く引き継ぐ「萩焼」や「赤間硯」のほか、さまざまな工芸があります。本展では、陶磁、硯、金属、木、ガラスの工芸に注目して、それぞれの素材の性質を巧みに活かして表現された形や、それが喚起する世界観を紹介します。



金子信彦 《天空の華》平成16年(2004) 当館蔵

# 「写しのカタチ」

普通展示（東洋陶磁） 8月21日（火）～11月25日（日）



土を主な原料とするやきものは、加工のしやすさから優れた造形性を有しています。その造形性を活かして古来より、「他のモノ」を写すことがやきものの大きな役割のひとつでした。

例えば、古代中国で儀礼行為などに使用された青銅器のような、金属を加工し製作に莫大な時間と技術が必要とする素材の代替品として、あるいは死後も生前と同じ生活をおくると信じ墓葬への副葬用として作られた、家や井戸などの暮らしの道具の模倣品として、やきものは様々な形を写し取ることに利用されました。また、中国江西省景德鎮窯の磁器が朝鮮半島を経て日本に伝わり、有田焼に代表される磁器を生み出したように、技術も写し取られる現象のひとつでした。

現代陶芸では、表現の一環として写しが用いられています。紙や布といった柔らかい素材を、土を使って表現することで「柔らかく見えるのに強い」という矛盾性を生み出し、作品に込められた造形やメッセージは、見る者を戸惑わせ、楽しませます。

多種多様な目的や視点をもって作られた写しのやきものを、本展示を通じてご堪能いただけましたら幸いです。

《緑釉井戸》 後漢時代 当館蔵



三島喜美代  
《コピー '82》  
1982年  
当館蔵

# 第7回 現代ガラス展 in 山陽小野田 特別作品展

展示室8（陶芸館2階展示室） 平成30年9月11日（火）～9月24日（月・振休）

主催 現代ガラス展実行委員会、山陽小野田市、山口県立萩美術館・浦上記念館  
 後援 文化庁、山口県、山口県教育委員会、日本ガラス工芸協会、日本ガラス工芸学会、山陽小野田市文化協会、KRY山口放送、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、宇部日報社、山口新聞、中国新聞防長本社  
 助成 公益財団法人エネルギー文化・スポーツ財団、公益財団法人朝日新聞文化財団  
 オフィシャルスポンサー CIC長州産業

「現代ガラス展 in 山陽小野田」は、後進作家の育成を願った山陽小野田市出身のガラス作家竹内博治氏の遺志を受継いで、45歳以下の若手を対象としたガラス作家の登龍門として知られる日本有数のコンペティションです。山陽小野田市外で初めて開かれる本展では、第7回展受賞作品のほか、全国から寄せられた多数の現代ガラス作品を紹介します。



- 1. 第7回現代ガラス展 大賞 勝川夏樹 《Fascination with Magnification II》平成30年(2018)
- 2. 同 優秀賞 広垣彩子 《connections》平成30年(2018)
- 3. 同 山陽小野田市長賞 高田賢三 《記憶の器》平成30年(2018)
- 4. 同 横山尚人審査員賞 藤定杏彩 《Air》平成30年(2018)
- 5. 同 隈研吾審査員賞 プライアン・コア 《Pulse》平成30年(2018)
- 6. 同 ホンムラモトゾウ審査員賞 川田絢子 《吸収》平成30年(2018)
- 7. 同 土屋良雄審査員賞 新實広記 《Vessel》平成30年(2018)
- 8. 同 三輪休雪審査員賞 石田慎 《魂の叫び》平成30年(2018)
- 9. 第1回現代ガラス展 大賞 西川慎 《月輪》平成13年(2001)
- 10. 第1回現代ガラス展 準大賞 池本美和 《Aqua #3》平成13年(2001)
- 11. 第4回現代ガラス展 大賞 川辺雅規 《Cocoon》平成21年(2009)
- 12. 第5回現代ガラス展 大賞 渡辺知恵美 《何かが見ている予感》平成24年(2012)
- 13. 第6回現代ガラス展 大賞 保木詩衣吏 《溜まる場所》平成27年(2015)

2018	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7	普通展示(浮世絵) 明治150年浮世絵に見る幕末明治③明治の内乱(〜7/8)										普通展示(浮世絵) 明治150年浮世絵に見る幕末明治③文明開化(7/10~8/19)																				
	普通展示(東洋陶磁) 白を表現する(〜8/19)																														
	普通展示(陶芸) 陶-生命の讃歌II(〜11/25)																														
	普通展示(陶芸) 現代の茶陶-松下寛コレクション(〜9/9)																														
	特選鑑賞室 歌川広重 名所江戸百景 大はしあたけの夕立(7/1~7/31)																														
茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(〜11/25)																															
特別展示 山口県・山東省友好協定締結35周年記念山東のやきものを楽しむ(〜7/16)										特別展示 フランス宮廷の磁器セーヴル、創造の300年(7/24~9/24)																					
GT ●										浮世絵 ■ GT ●																					
8	普通展示(浮世絵) 明治150年浮世絵に見る幕末明治③文明開化(〜8/19)										普通展示(浮世絵) 明治150年浮世絵に見る幕末明治④新しい歴史画(8/21~9/24)																				
	普通展示(東洋陶磁) 白を表現する(〜8/19)										普通展示(東洋陶磁) 写しのカタチ(8/21~11/25)																				
	普通展示(陶芸) 陶-生命の讃歌II(〜11/25)																														
	普通展示(陶芸) 現代の茶陶-松下寛コレクション(〜9/9)																														
	特選鑑賞室 葛飾北斎 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏(8/1~8/31)																														
茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(〜11/25)																															
特別展示 フランス宮廷の磁器セーヴル、創造の300年(〜9/24)																															
GT ●										浮世絵 ■ GT ●																					
9	普通展示(浮世絵) 明治150年浮世絵に見る幕末明治④新しい歴史画(〜9/24)																														
	普通展示(東洋陶磁) 写しのカタチ(〜11/25)																														
	普通展示(陶芸) 陶-生命の讃歌II(〜11/25)																														
	普通展示(陶芸) 現代の茶陶-松下寛コレクション(〜9/9)										第7回現代ガラス展 in 山陽小野田 特別作品展(9/11~9/24)																				
	特選鑑賞室 葛飾北斎 富嶽三十六景 凱風快晴(9/1~9/24)																														
茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(〜11/25)																															
特別展示 フランス宮廷の磁器セーヴル、創造の300年(〜9/24)																															
GT ●										浮世絵 ■ GT ●																					

**★イベント**

「山口県・山東省友好協定締結35周年記念 山東のやきものを楽しむ」関連イベント

タッチ&トーク(申込先着順)

日時●7月7日[土]①10:00~11:00、②14:00~15:00

中国茶と楽しく触れ合う(申込先着順)

日時●7月8日[日] 14:00~15:30

講師●武谷 哲宏氏(武谷清風堂)

「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」関連イベント

ワークショップ「切り絵の絵付け-転写シート活用術」(申込先着順)

日時●8月4日[土]①10:00~12:00、③13:00~15:00

講師●担当学芸員

参加費●1,000円

定員●各回16名(小学生以下は保護者同伴)

会場●陶芸館多目的室

申込方法●電話(0838-24-2400)にて、

①参加者全員の氏名・年齢

②代表者の住所・電話番号

③参加回(①または②)をお知らせください。

セーヴル磁器で楽しむティー・セミナー(申込先着順)

日時●8月18日[土] 14:00~16:00

講師●堀谷 哲夫氏(ロンドン代表取締役)

坂本 三佳氏(日本紅茶協会 シニアティーンストラクター)

参加費●4,000円(観覧料を含む)

定員●16名(小学生以下は保護者同伴)

会場●陶芸館多目的室

申込方法●電話(0838-24-2400)にて、

①参加者全員の氏名・年齢、

②代表者の住所・電話番号をお知らせください。

「彫金のわざと美 山本晃の詩想と造形」関連イベント

アーティスト・トーク(要観覧券/申込不要)

日時●10月14日[日] 14:00~15:00

アート・フェスティバル2018

子どもから大人まで楽しめるワークショップなど

無料イベントが盛りだくさん!

日時●8月11日[土] 9:00~16:30

●記念講演会(聴講無料/当日受付先着順)

日時●7月28日[土] 13:30~15:00

講師●櫻庭 美咲氏(神田外語大学専任講師)

演題●華麗なるセーヴル磁器の歴史とその魅力

場所●本館講座室(座席数84席)

日時●10月6日[土] 13:30~15:00

講師●榎本 徹氏(岐阜県現代陶芸美術館顧問)

演題●近代の金工と山本晃

場所●本館講座室(座席数84)

●ギャラリー・ツアー(担当学芸員による特別展示作品解説)

いずれも11:00~12:00

「山口県・山東省友好協定締結35周年記念 山東のやきものを楽しむ」

7月1日[日]、7月15日[日]

「フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年」

会期中の毎週日曜日

「彫金のわざと美 山本晃の詩想と造形」

10月7日[日]、10月21日[日]、10月28日[日]

●ギャラリー・トーク(担当学芸員による普通展示作品解説)

いずれも11:00~(30分程度)

7月14日[土] 文明開化

7月28日[土] 陶-生命の讃歌II

8月11日[土] 白を表現する

8月25日[土] 新しい歴史画

9月8日[土] 現代の茶陶-松下寛コレクション

9月22日[土] 写しのカタチ

10月13日[土] 小林清親

10月27日[土] 山口県の工芸

※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。

※10月実施分までを掲載。掲載内容は7月1日現在のものです。最新のイベント情報、詳細はホームページをご覧ください。

交通アクセス

【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩-明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】萩・石見空港から

- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70~80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

- JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
- JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
- JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小部萩道」給室ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

